



TITLE:

まえがき

AUTHOR(S):

高橋, 秀典

---

CITATION:

高橋, 秀典. まえがき. 技術室報告 2013, 14: i-i

ISSUE DATE:

2013-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/233473>

RIGHT:

## まえがき

防災研究所技術室長 高橋 秀典

防災研究所技術室の2012年度の活動の成果をまとめた技術室報告第14号が完成しました。昨年5月に発行した技術室報告第13号と同様、今号も技術室ホームページ上だけの掲載といたします。

われわれ技術職員が所属する総合技術部が毎年発行してきた研修技術（研究）発表報告集も、2003年1月に発行した報告集19から、われわれの技術室報告と同様にホームページ上だけの掲載となりました。紙媒体から電子媒体への流れは、時代の趨勢（すうせい）なのだと思います。

この1年間で技術室に大きな変化があったことも、ある意味で時代の趨勢なのかもしれません。昨年、技術室報告第13号を発行した時点で、技術室のメンバーは定員内職員18名、再雇用職員9名の計27名でした。これに対し、現時点での技術室のメンバーは定員内職員17名、再雇用職員2名の計19名にすぎません。

今年3月末で契約満了となった7名の再雇用職員（市川信夫、近藤和男、志田正雄、清水博樹、高山鐵朗、中尾節郎、藤木繁男＝以上、順不同、敬称略）については、もとより想定の範囲内の出来事です。他方、事情がそれぞれ異なるとはいえ、ここ1年間で3名の定員内職員が、相次いで辞職したのは想定の範囲外の出来事でした。そんななか、2013年4月に関健次郎、中川潤の2名の新人を迎えることができたことは、技術室にとって一筋の光明と言えるでしょう。

2013年度は一時的に技術職員が減ることで、防災研の教職員の皆様などにご不便をおかけすることもあるかとは存じます。しかし、来年度以降も新戦力を獲得して育成することによって、防災研の研究や教育をサポートし続けることが、われわれの使命だと思っています。

この技術室報告を読んでいただくことで、われわれ技術室の活動に対する理解をさらに深めていただき、技術支援を依頼する際の参考にしていただけることが、技術室一同にとっての大きな願いです。今後とも教員の方々、事務部の方々にもご理解と一層のご支援をいただけると期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

末筆になりましたが、技術室報告第14号の取りまとめに当たってご協力いただいた皆さんの労に深く感謝いたします。